

年の瀬になってまいりました。今月の表紙はペリー内科の内原先生撮影の南の島のクリスマスです。サンタクロースとアフリカ原産の観葉植物（虎の尾：サンセベリア・ローレンチー）の mismatch が楽しいですね。マイナスイオン効果があるということで人気が高まりました。私も好きな観葉植物の一つで自分のクリニックでも飾っています。

第119回日本医師会臨時代議員会報告は玉城信光先生に書いていただきました。昨今の報道に散見される勤務医と開業医との対立的な取り扱われ方には何らかの世論誘導的な意図を感じます。先日東京で起きた妊婦受け入れ拒否の報道においても受け入れ側の病院とかかりつけ医病院との対立の構図で扱われている事に危機感を感じました。問題はもっと社会構造的な問題なのに、犯人捜しに終始してはいけません。日本医師会はしっかりと声をあげて主張すべきと思います。平成20年度都道府県医師会「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師」認定制度に関する協議会は安里哲好先生に書いていただきました。いわゆる総合医は、この事自体を否定するものではありませんが、この制度を逆手にとってフリーアクセスの障害、人頭払い制に利用される危険性を注意深く見ていく必要があります。九州医師会連合会第298回常任委員会と九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議は宮城信雄会長に書いていただきました。社会保険庁の再編に伴う九州厚生局の今後の動きには注意したいものです。平成20年度沖縄県女性医師フォーラムは依光たみ枝先生に書いていただきました。この様な活動が実効性を持つかどうかは女性医師一人一人の関わり方にかかっています。女性医師一人一人が主体的、積極的に発言し、医師として関わっていく姿勢が今後求められていくでしょう。マスコミとの懇談会は自殺について取り上げ非常に盛り上がりました。紙面には出てきませんが、その後のささやかな懇親会ではオードブルを囲みながら、マスコミの皆さんと更に盛り上がりました。今回の生涯教育はグリオーマ治療に関して吉井與志彦先生に書いていただきました。グリオーマにおける組織内多様性が良くわかりまし

た。プライマリアケアコーナーでは沖縄喘息死0を目指して、藤田次郎先生と嘉数朝一先生に書いていただきました。吸入ステロイドと β 刺激吸入薬との使用頻度の比較は大変興味深かったです。根治的な治療をせずにその場しのぎの治療を繰り返すのは喘息に限った問題ではありません。人工透析とCKD（慢性腎臓病）の問題も根底では同一でしょう。だからこそ我々医師会が県民に直接語りかける場が必要だと思うのです。インタビューコーナーでは北部地区医師会会長の大城修先生にインタビューしました。難しい舵取りをしなくてはなりません、大城先生には健康に気をつけていただきながらご活躍を期待したいと思います。月間行事コーナーはHIV感染、AIDSに関して椎木創一先生と宮川桂子先生に書いていただきました。社会資本を有効活用していく大切さを再認識いたしました。HIV感染防止のためにはもっと大胆な手を打つ事も今後は必要になってくるものと思われれます。新型インフルエンザ対策に関してもそうですが、もっと行政と医師会の意見交換が緊密になされる必要があると思います。地区医師会コーナーでは平敷淳子先生の国際女医会会長講演会報告を石川清和先生と高良和代先生に書いていただきました。国家試験によって医師免許証が授与された医師は性別によらず生涯医師として生きていくことが当たり前という言葉に感動いたします。若手コーナーでは喜舎場朝雄先生から初期研修のあり方、そして若い医師達への熱いエールを送っていただきました。津波実史先生からは指導医として若い医師との関わり方を書いていただきました。叱ることの出来る指導医ですか、私は研修医をあまり叱れませんね…。関わり方が浅いのかも知れないとちょっと考えさせられました。リレー随筆は照屋勉先生に笑いのすずめを書いていただきました。いつも感心しますが、照屋先生は本当に繊細な感覚をお持ちです。佐久間淳先生、宮里不二雄先生、高須信行先生、長嶺信夫先生の随筆はどれも深く、味わいのある文章ですね。どの問いにも結論は無いのでしょうか、この様な思索を深める事はとても大切な事だと思いました。

広報委員 玉井 修